

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2013.12.15 No.184 連絡先 FAX 042-555-1911



憲法違反の秘密保護法案 自公が強行採決！

12月6日深夜、「特定秘密保護法」の採決が行われ、賛成多数で可決成立しました。日ごと批判は高まり、世論調査でも圧倒的多数が慎重審議、廃案を求めています。6日の日比谷野外音楽堂には、強行採決が迫る中、最後まで声を上げ続けようと1万5千人が集まりました。(左上写真：開会前の様子)

秘密保護法撤廃を！ 12・8 三多摩集会4000人

「憲法改悪阻止！安倍政権の暴走ストップ！12・8 三多摩大集会」が8日、井の頭公園で開かれ、4000人が参加しました。

主催者の「国民の声を無視して秘密保護法を強行採決した安倍政権に抗議する。撤廃させるため引き続き反対の声をあげましょう」との呼びかけに、大きな拍手が答えました。

「横田基地の撤去を求める西多摩の会」は高橋代表代行が、横田基地撤去、オスプレイ来るなど2分間スピーチしました。



小松基地の日米共同訓練に横田基地のC-130が

小松基地への訓練移転（共同訓練）が、12月7日（土）～14日（土）、米空軍嘉手納基地のF-15×6機と人員約90名が参加して行われたようです。小松市（石川県）の広報にもお知らせがありました。地元紙によると日米共同訓練は3年ぶり6回目だそうです、7日には、F-15戦闘機6機とC-130輸送機が飛来。米兵約90人も到着したそうです。



米軍嘉手納基地のホームページによると、C-130は訓練の参加者を運んで、小松に到着した、とあり、小松基地に駐機する横田基地のC-130の写真がありました。あちこち行っていますね。

この訓練に対しては、平和団体などが小松市や小松基地に訓練中止を申し入れています。

MV 2 オスプレイがパラシュート降下訓練をした 伊江島に行く ⑤



オスプレイの爆音被害や粉塵被害が激化している伊江島に、オスプレイが使用する新たな着陸帯が6カ所、建設されていることが分かったという「赤旗」の記事（「赤旗」8月6日付）と写真を見て驚きました。米海兵隊司令部は赤旗記者の質問に対し、「約1カ月前から着工し、今夏に完成する」、「オスプレイを含む垂直離着陸が可能な軍用機が使用する」と回答しました。また、6カ所のうち4カ所は、

（オスプレイ用着陸帯 写真著作権は赤旗紙） アルミ板を敷く「AM2」と呼ばれるタイプで、「遠征飛行訓練に使用する」とし、強襲揚陸艦への着艦訓練を行うとみられます。残る2カ所は砕いたサンゴ礁を敷いた「コーラル」タイプで、不整地での離着陸を想定したものとみられます。

軍事強化されている伊江島。美しい平和な国を子や孫たちに残したいと強く思いました。(終)

沖縄県知事 普天間「県外移設」を表明 日米に要求

(No. 184 の裏面)

沖縄県の仲井真弘多（なかいまひろかず）知事は 12 月 5 日、普天間基地にかわる名護市辺野古への新基地建設について、「日米両政府に『県外移設』、早期返還を強く求めていく」との立場を改めて示しました。県議会で玉城義和県議（県民ネット）の質問に答えました。（右写真：11・24 首都圏大集会に参加した玉城義和県議）



仲井真知事は、辺野古「移設」が普天間基地問題の「唯一の解決策」とした日米合意について、「仮に百歩譲って辺野古だとしても、実現には長期化しかねない。普天間の危険性がそのまま温存され、固定化する」と指摘。「日米両政府は辺野古の難しさを現実的に理解しないとイケない」とくぎを刺しました。

また、渡久地修県議（共産党）の「政府のどう喝に屈服せず、知事は辺野古埋め立てを断固不承認との勇気ある決断を」との要求に、仲井真知事は自身の公約は「県外移設」、「辺野古『移設』は事実上不可能」だとして、「公約は県民との約束。実現に向け全力で頑張りたい」と答えました。

事実上不可能な「辺野古『移設』」 代替施設建設事業とは？



辺野古の新基地は、普天間基地にはない機能も備えられています。

例えば、●航空機用の燃料を運搬するタンカー（109m）が接岸できる燃料栈橋、●故障したヘリを運搬するなどのためのタンカー（184m）が接岸できる護岸（係船機能付）、●航空機に弾薬を搭載したり降ろしたりする弾薬搭載エリア（約 16,000 m²）などです。



施設の大きさは 205 畝。そのうち埋め立てられる大きさは 160 畝です（1 畝は 100m × 100m の大きさ）。代替施設の高さは水面から約 10m です。

埋め立てに使用する土砂の量は、合計で 2100 万立方畝です。

左の写真（名護市パンフより）は、あけみお SKY ドームの外観と内観です。

このドームの容積は 74,000 立方畝なので、土砂の容積はドームの 284 倍分にもなります。土砂採取場所は、辺野古ダム周辺 200 万立方畝、キャンプシュワブの陸上部 200 万立方畝、沖縄、九州、瀬戸内周辺から購入 1640 万立方畝、沖縄島周辺 60 万立方畝です。不可能な辺野古移設です。

来年 1 月、名護市長選挙があります。なんとしても新基地 NO！の市長を当選させたい。

来年 2 月～3 月 新潟、群馬での日米共同訓練に オスプレイ参加

来年 2 月から 3 月にかけて、陸上自衛隊の関山演習場（新潟県）と相馬原（そうまがはら）演習場（群馬県）で行う実戦想定の日米共同訓練に、沖縄に配備されている新型輸送機 MV-22 オスプレイを参加させると、防衛省が発表しました。オスプレイの全国拡散を加速させます。

新潟、群馬での共同訓練は「フォレスト・ライト」と呼ばれ、陸上自衛隊と米海兵隊がオスプレイに搭乗し、着陸した後に地上に展開する「ヘリボーン訓練」を検討しているようです。（*ヘリボーンとはヘリコプターを用いて敵地などへ部隊を派兵する戦術。）

10 月、オスプレイが初参加した饗庭野演習場の日米共同訓練もヘリボーン訓練だったようです。

本土でのオスプレイ訓練を、安倍政権は沖縄の米軍基地負担を減らすための措置と説明していますが、これは嘘とごまかしです。オスプレイが普天間基地から沖縄以外の地域にでかけて飛行訓練をしても、訓練が終われば沖縄に戻ります。本土で何機かが短期間飛行訓練をしているあいだも残りのオスプレイは県内を傍若無人に飛び回っています。本土での訓練はオスプレイの沖縄配備を固定化・恒久化させることにもなります。沖縄県民と本土住民の命と安全を守るためには、オスプレイの全国への拡散ではなく、沖縄配備そのものを撤回させることです。